

「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年11月26日（金） NO25 文責 木下 文秋

薬物乱用防止教室から見えてきたこと

先週の金曜日に薬物乱用防止教室が行われました。講師は清武町でNPO法人をされる初鹿野聡さんでした。初鹿野さんはNPOで地域の防災や子供の安全などを手がけている方で、MRTラジオのパーソナリティでもあります。また、元刑事であり、少年犯罪などにも詳しい方です。初鹿野さんの薬物乱用防止教室は、私がこれまで見てきた内容と全く違うものでした。これまで見てきた薬物乱用防止教室は、覚醒剤やコカイン、大麻などといった薬物の画像を見せたり、薬物に依存した人のDVDを視聴させたりするものが一般的でしたが、初鹿野さんはDVDなどは殆ど使わず、また薬物の種類や症状等にも触れることはなかったです。初鹿野さんのテーマは「いい人生を送る」でした。どうして薬物に依存するのか、どういったときに薬物に手を出すのかを生徒に投げかけ、キャッチボールをしながら講演を進められました。時として、メンタルが落ち込み、周りに本人を見守る人がいないときに、魔の手が及ぶとのことでした。生徒全員の感想文を見ました。全部は読めませんでしたが、全員の文面を確認しました。殆どの生徒はいっぱい書いていましたが、中にはたった2行しか書いていない生徒もいました。初鹿野さんの講演から見えてきたもの。それは薬物の種類やダメージはもちろんですが、「いい人生を送るために何が大事か」というメッセージだと思いました。「いい人生」とは何でしょうか。「失敗をしたり恥をかかないこと」ではないですね。人は失敗をして恥をかいて大きく成長します。そもそも失敗しない人生などあり得ません。「いい人生」の答えはたくさんありすぎてどれが正解かはわかりません。ただし、今の中学生に私が言えることは「いい友との出会いをすること」もひとつだと思います。良き友と出会い、互いに刺激し合い、切磋琢磨しながら学校生活を送ることが大事な事だと思います。間違いを起こしそうなとき「それは違う」とアドバイスしてくれる。メンタルがやられたとき「ドンマイ」と言ってくれる。そんな友達を持つことが中学生にとって「いい人生」につながると思います。極端に言えば、めんどくさがりで何でも逃げてばかりの友と一緒にいれば「それ」が当たり前になります。「友と共に伸びる」です。以上、水曜日の生徒集会で私が生徒に話をした内容をほぼそのまま載せました。